

高く天の光の希望

新時代も平和と歩む

岐阜市の長良川河畔で3日開かれた第74回全国花火大会。令和時代の幕開けを祝う大会のテーマ「ライジング」を表現した華やかな花火は、県都の夜空に加え、例年にも増して大勢訪れた来場者の笑顔をも明るく照らし続けた。「新時代も平和を」「わが子の健やかな成長を」。夜空に咲き誇る大輪の花火に重ねた、それぞれの思い。来場者の声を聞いた。

全国花火大会

岐阜市は3日も最高気温 猛暑日。うだるような暑さが36・8度と、6日連続の となったが、日が沈むにつ

れ川風が吹いて絶好の花火日和となった。夜の部は、「新時代の幕開け」と題した超ワイドスターマインで午後7時30分に華やかにスタート。来場者の笑顔の花

岐阜市八代の自営業松川由孝さん(73)は「昭和40年代から毎年見に来ていた」という大会ファン。体調を崩し入院していたため今年は8年ぶりの来場といい、「一番好きな花火大会なので、心から楽しみにしていた。昭和、平成、令和と見続けてきたが、みんなが笑顔で見ている点は変わらな」と話し、妻の千恵子さん(74)も「来年も、再来年

も、元気に2人で見に来たい」と仲むつまじい笑顔を見せた。

な時代になってほしい」と願いを込めた。多くの若者も訪れた。揖斐郡池田町八幡の高校2年生浦山絢加さん(16)は「これだけ規模が大きい花火大会が岐阜で見られるのはすごいこと」と話し、打ち上がる大輪に向けてしきりにスマートフォンを構えた。岐阜市長良福光の高校2年生林流星さん(17)は「この花火大会のように、日本の良さを外国人に知ってもらえる新時代になってほしい」と期待した。同市領下の高校2年生林莉緒さん(16)は「みんなで楽しめる花火大会が、これからも平和に続いていったらいいな」と願った。

県内外の政財界人も満喫



全国花火大会を楽しむ(前列左から)杉山武史三菱電機社長、日比野隆司大和証券グループ本社会長ら＝3日午後7時40分

岐阜市の長良川河畔で行われた第74回全国花火大会には、県内外から多くの政財界関係者が訪れ、新時代を彩る大輪に酔いしれた。大和証券グループ本社の

と評した。

三菱電機の杉山武史社長(各務原市出身)は「小学生の頃に自転車で見に来た思い出がよみがえる。日韓関係の冷え込みなど閉塞感が漂うニュースが多いが、みんなを明るく元気にしてくれる大会の開催を喜ぶたい」と話した。

JA岐阜中央会の櫻井宏会長は孫らと家族6人で観賞。「川面を照らす花火が美しく、ナイアガラ花火も迫力がある。令和の時代は災害がなく平穏な日々が続くことを祈りながら見守りたい」と願った。

平木省副知事、柴橋正直岐阜市長、廣瀬公雄十六銀行取締役常務執行役員、黒川公男岐阜乗合自動車社長、大松栄太岐阜プラスチックス工業社長、駐日アフガン大使夫人の柳原・モハバット・靖子さんらも観覧した。



大勢の観衆を魅了したスターマイン＝3日午後7時36分長良川河畔(撮影・堀尚人)



令和最初の全国花火大会の幕開けに歓声を上げる来場者＝3日午後7時30分